（５年）

	今年度の課題	改善策	補充・発展指導計画	年度末評価
国語	・言葉や文に即した読解指導ができておらず、知識・理解の定着に課題がある。 ・漢字や文法の指導が楽しく興味をもつようにできていない。 ・比べて考えながら聞く指導や伝え合いを意識した話す指導が十分ではない。	・言葉や文章表現に着目させたり、問題設定時にはっきりとめあてを意識させたりする。 ・漢字カルタやビンゴ、丁寧な練習ノートの紹介など意欲を高める手立てをとる。 ・話し合う目的や方法、内容を明確にして活動させる。	・読書一万ページに挑戦。 ・音読・表現読みのトレーニング。 ・読み物教材に触れる機会を増やす。 ・文法、漢字プリントの使用。 ・東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。	・文のきまりや考える力を身に付けさせるために行ってきた作文指導は、効果があり、スムーズに書くことができる児童が増えた。作文の型を身に付けさせることで、自分の考えを整理して書くことのできる力も身に付いた。 ・次年度は、読み取る力や知識・理解の力を身に付けられるような方策が必要である。
社会	・問いを育てたり、社会認識を高めたりするような教材や学習活動の工夫が足りなかった。 ・基礎的な用語や地図の見方など習熟させられなかった。	・日常の生活や社会問題から、問いをもつことを大切にした参加型の授業を行う。 ・興味をもてる教材教具を工夫する。 ・基礎基本が楽しく分かり、身につく教材の与え方を工夫する。	・新聞を使っての学習。 ・ＩＣＴ機器を活用した調べ学習。 ・地域教材の開発。 ・東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。	・社会科見学では、事前事後学習に取り組ませたことで、意欲的に学習できた。 ・自分たちの生活と関連させながら、指導することができた。 ・地図の見方は引き続き指導が必要。
算数	・内容の消化に追われ、問題をじっくり考えて解く授業が不十分だった。 ・学力の差を縮めるための時間確保が難しかった。 ・班ごとに考える時間を設定したが、課題に向けての話合いが深まらなかった。	・わからない問題を自分で解けた喜びが、次につながるような考える授業を行う。 ・身近な問題作りをして、学習意欲を高める。 ・人の考えを聞いたり、話し合い活動をしたりすることで、理解がさらに深まるように授業づくりを行う。	・基礎的なことの定着のため普段から「これはどういう事かな」と考える習慣を付けていく。 ・東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。 ・地域未来塾を有効に活用する。	・「問題解決の見通し」や、「ヒントカードの活用」、「学び合い」などを通して、問題解決の方法を表現できる児童が増えた。引き続き、基礎基本の定着を図り、その知識を生かした問題解決の力を身に付ける必要がある。
理科	・授業から科学的な興味関心へとつながらなかった。 ・問題作り、考察、結果をまとめることに苦手意識をもっている。	・一人一人が興味をもって実験や観察ができるように器具や教材の数を増やす。 ・子供自身が自然と問題をとらえられる事象提示を行う。 ・考察か結論の書き方を繰り返し、指導する。	・デジタル教材や機器を活用し、詳しく観察したり、繰り返し実験を見直したりできるようにする。 ・苦手意識をもつ児童には話型を用いて指導を行う。	・事象提示を工夫したことにより、主体的に問題解決に取り組むことができた。 ・考察を書くことを苦手としている児童へ個別指導を行ったが、さらなる充実が求められる。

体育	・めあてをもって学習する姿勢に個人差がある。	・学習カードなどを活用し、児童の思考判断を適切につかむ。 ・グループ学習でのお互いに教え合いやタブレット撮影による振り返りなどで技能を高めていく。	・掲示物や補助的な資料を用意し、児童がめあてをもてる環境を用意する。（外用掲示板の活用）	・器械運動や陸上運動では、技能のポイントを示したことにより、課題意識をもって学習に取り組めるようになった。 ・タブレットなどの撮影は数回行ったが、より使いやすい方法を検討する必要がある。